

あの頃の風景

武蔵野の平地林 三富新田

日本建設コンサルタント株式会社
東京支社 技術部門(河川・水工)グループマネージャー
小澤宏二 OZAWA Koji



写真1 三富新田(三芳町から所沢市方面を望む)

1 三富新田とは

三富新田は、埼玉県南部の川越市、所沢市、狭山市、大井町、三芳町の5市町にまたがる、歴史的にも特色のある緑豊かな畑作地帯である。そこには農地と平地林の織りなす武蔵野の景観が広がる。

三富新田は今から約300年前、江戸時代の元禄年間、川越藩主の柳沢吉保が行った新田開発により誕生した。その中心地には、今でも上富(三芳町)、中富、下富(以上、所沢市)の地名が残る。「富」の名の由来は、中国の孔子の教えに基づくもので、豊かな村になるようにという願いが込められていたという。

2 三富新田の地割

三富新田の開拓は、一農家ごとに幅40間(約72m)、長さ375間(約675m)と細長く地割(区画)され、そこを道に面した方から順に屋敷地、耕地、そして後方に平地林を配した。家のまわりを囲む屋敷林には、竹、けやき、杉、ひのき、榎などが植えられ防風の役目を果たした。農作業の場となる耕地は、一日一人の労働範囲の目安となる五畝単位(約500m²弱)に区画された。「一人前の男子とは、一日五畝の畑を耕作せるものをいう」という話を例え、五畝を基本にして一年の耕作計画が立てられた。また畑の土が強風で飛ばないように、畑の境界にはお茶の木が植えられた。

平地林にはコナラやクヌギ、赤松などが育てられ、これらは防風林、また燃料となる薪や肥料(堆肥)となる落ち葉の供給源として、農民の生活になくてはならないものであ

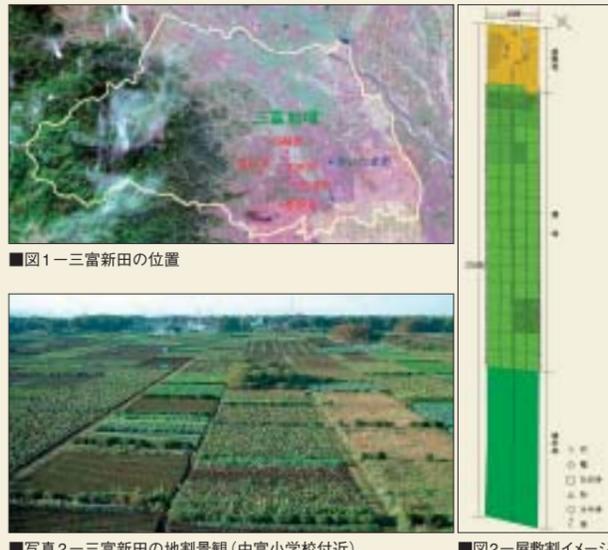


図1 三富新田の位置

写真2 三富新田の地割景観(中富小学校付近)

図2 屋敷割イメージ

った。まさに三富新田の地割は先人の知恵と工夫の結晶による産物であった。その先人の知恵は、現代にあって「循環型農業」「環境保全型農業」として見直され始めている。今でも冬になると堆肥の原料となる落ち葉を集める「ヤマ掃き(三富では平地林のことをヤマと呼んでいる)」がいたる所で行われ、地域の風物詩となっている。

3 緑の森が虫食い状に伐採された「くぬぎ山地区」

三富新田では20年ほど前から、周辺の開発に伴う地価上昇により相続負担等が大きくなり、切り売りされる土地が増え始めた。近年では産業廃棄物施設や資材・残土置場、倉庫などが次々と進出し、緑の森が虫食い状に伐採され、ごみの不法投棄が目立つようになるなど、美しい地割が崩れ始めている。

川越市、所沢市、狭山市、三芳町にまたがる「くぬぎ山地区」は、平成11年のダイオキシン問題の報道により「産廃銀座」という不名誉な名で呼ばれた地でもある。今から約30年前(昭和49年)のくぬぎ山地区の様子と平成14年のものを比較すると、虫食い状に伐採された様子や茶色い地肌や工場の建物などの様子などがよくわかる(写真3)。



写真3 くぬぎ山地区の土地利用の変貌(写真左:国土交通省国土地理院, 右:東京デジタルマップ(株))

4 市民、行政の協力による平地林の維持管理、再生

一方で、三富新田には江戸時代の歴史景観を継承する地割の姿が今でもはっきり残されている(写真4)。また新田開拓の歴史景観と緑豊かな平地林を守り育てる市民団体によるトラスト活動も積極的に行われている。個々の農家による平地林の管理が難しくなったところでは、行政の呼び掛けに集まったボランティアと地元の農協や地権者の組織との協働によるヤマの手入れや落ち葉掃きが行われるなど、市民と行政の協力による平地林の管理がなされている。

くぬぎ山地区は環境省の「くぬぎ山自然再生」のモデル地域に指定され、また三富新田の一部は県条例による「ふるさとの緑の景観地」に指定されるなど、平地林を保全し、その歴史的・文化的・環境的価値を継承する制度的な支援も行われている。三富新田の平地林は300年以上もの間、農家による落ち葉掃きや定期的な伐採更新により維持され、そして美しい緑の森として、都市部に残された貴重な生物の生息・生育空間として守り続けられてきた。この貴重な平地林を次の世代へと存続させる責務が今に生きる私たちにはある。循環型社会の構築という社会のテーゼに対し、三富新田は一つの原形を示しているのではないだろうか。



写真4 江戸時代の歴史景観を今に伝える地割(写真左:米軍, 右:東京デジタルマップ(株))

〈参考文献〉

- 1) 三富地域農業振興協議会パンフレット「三富地域の農業」
- 2) 三芳町教育委員会パンフレット「三富新田の開拓」
- 3) 狭山市報「広報さやま」平成14年10月10日号

(写真提供、引用文献:写真1、埼玉県広聴広報課
写真2、5、6、埼玉県川越農林振興センター
図2、三芳町教育委員会パンフレット「三富新田の開拓」)



写真5 緑豊かな三富新田の平地林

写真6 市民による落ち葉(ヤマ)掃き